



令和2年度 小樽商科大学学術研究奨励事業
第15回「学生論文賞」

国立大学法人小樽商科大学

グローバル戦略推進センター教育支援部門

目 次

総 評.....	1
審査結果一覧.....	2
ヘルメス賞及び優秀賞講評	3
審査員一覧	6

総 評

学生論文賞実施委員会
委員長 竹村 壮太郎

今年度は、学部生部門に49編の応募がありました。所属学科の内訳は、商学科が29編と最多で、続いて社会情報学科から13編、経済学科から5編、企業法学科から2編の応募となりました。

審査については、2段階審査で行いました。第1次審査は、49編について、多分野の研究に携わる36名の教員が、学術横断的な視点からプレゼンテーションの審査を行いました。第2次審査は、第1次審査を通過した19編について、論文内容に関連した研究に携わる37名の教員が論文の審査を行いました。

厳正なる2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞5編、奨励賞7編、第1次審査のプレゼンテーションで最上位の得点を得た論文に授与されるプレゼン賞1編となりました。

ヘルメス賞や優秀賞の受賞論文は、いずれも「研究の手法・分析方法」や「研究内容・論理性」といった点で高い評価を受けています。特にヘルメス賞の受賞論文では、高い論理性に加え、先行研究を丁寧に調べ上げるといふ、研究活動の原点にして基本に対する誠実さも注目すべき点であったように思われます。他方、それ以外の多くの研究では、優れた研究手法を展開しようとする一方、この先行研究へのレビューという点に多く課題を残した印象です。優秀賞、奨励賞受賞論文の多くが論理性や新奇性、独創性に課題を残していることも、元をたどればこの基本への誠実さをやや欠いた結果であるともいえましょう。とはいえ、今年度に限っていえば、ご承知のようなコロナ禍に見舞われたこともあり、文献の収集や調査にある程度の制約があったことも否めないところです。むしろそのような状況下でも、ユニークで、現代的な課題にアプローチしようとする意欲的なテーマ設定がなされている論文が多くエントリーされたことは、非常に頼もしくも思うところです。

本論文賞では、2段階審査のいずれにおいても、応募者への評価のフィードバックが行われています。今回経験された、事実、真理を誠実に解き明かしていこうとする研究活動への姿勢は、社会の中でどう活躍するとしても、必要となるものです。今回取り組んだテーマへの関心を持ち続け、得られたフィードバックをもとに、さらに研鑽を積んでいってくればと、切に願っております。

今年度は非常に困難な状況下となりましたが、ご多用の中、本論文賞の開催、審査にご協力いただいた教職員の皆様には、厚く御礼を申し上げますと共に、来年度も是非にご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

審査結果一覧

ヘルメス賞

将来の餌に応答した孵化直後のエゾサンショウウオ幼生の表現型可塑性
岡村 翔
谷村 恵奈

優秀賞

国際人権条約の日本における実施—朝鮮学校無償化除外を例に—
渡邊 すず香

電車内の座席譲り合い行動に関する研究
谷越 大輔
加藤 叶

唯一解を持つ拡張フィルパズルの自動生成
吉田 茉由

最寄品のパッケージにおける CRM 研究
吉田 智葉

管理会計における日米間の学習順序の相違についての研究
舘山 航

奨励賞

固有表現抽出による判例の匿名化
山下 伽月

イミ消費的要素が Web 情報を通じた外食店舗選択に与える影響について
竹島 優貴

コロナ禍における化粧品業界の環境適応の考察—業界 3 社の比較分析から—
菊地 愛菜

若年層における小売電気事業者の選択とその要因についての検証
佐々木 みなみ

広域防災機能を高める道の駅ネットワークの研究
讃岐 藍

購買者の選択ストレスを考慮した最適な商品バリエーションに関する研究
成田 希梨伽

性別を含む修飾表現が生む偏りに関する考察
清水 美里

ベスト・プレゼンテーション賞

コロナ禍における化粧品業界の環境適応の考察—業界 3 社の比較分析から—
菊地 愛菜

ヘルメス賞及び優秀賞論文講評

ヘルメス賞

「将来の餌に応答した孵化直後のエゾサンショウウオ幼生の表現型可塑性」

岡村 翔
谷村 恵奈

この論文は環境中で生物が有利に生存していくための能力である表現型可塑性について、エゾサンショウウオを対象とした観察、分析を行ったものである。自然環境においては多様な生物が互いに影響を及ぼしながら生存しており、環境中で発生している事象を実験室で検証するためには目的に合った実験条件の設定が重要となる。本研究では、脆弱な幼生期に生存する環境中に複合するシグナルに対する応答を判別するための研究方法の設定が優れており、丁寧な観察をもとに結果を導き出している。

また、観察された表現型可塑性を引き起こすシグナルの意味やエゾサンショウウオの生存にもたらすメリットについて、先行研究から論理的な考察が行われている。獲得した形態が長期的な生存戦略における優位性をもたらすかどうかについては今後の研究に残された課題であり、今後の研究の広がりが期待される。

優秀賞

「国際人権条約の日本における実施—朝鮮学校無償化除外を例に一—」

渡邊 すす香

学部レベルの法学教育では、専門課程のゼミであっても、国内法か国際法かのいずれかにまず分かれ、さらにそれぞれの中の小分野（国内法であれば憲法や民法や刑法等、国際法であれば人権法や環境法や経済法等）に細分化された形で学修することが多い。また、国際法のゼミでは、国際法そのものの内容を中心に検討することが多く、それが国内の法制度とどのように関連しているかについて踏み込んで検討する機会は限られている。

これに対し、本論文は、朝鮮学校の無償化問題という現代的な論点について、国内法上の課題と国際法上の課題とを包摂した形で分析しており、かつその質も高い。商学部においても高度の法教育が提供できることを社会（本学を志望するかもしれない高校生を含む）に示す好例として、優秀賞に値するものと評価できる。

「電車内の座席譲り合い行動に関する研究」

谷越 大輔
加藤 叶

本研究は、公共交通機関における座席の譲り合い行動に関して、「座席を譲ったのに断られると気まずいので座席をゆずらない」「座席を譲ってほしいが声をかけられない」という現象について考察し、譲り合いを促進する方策を提案したものである。前半のゲーム理論分析では、着席している乗客を譲る気持ちの大小・消極性の大小で4タイプ、立っている（弱者の）乗客を譲られる気持ちの大小・消極性の大小の4タイプを想定し、かつ他者のタイプは不明である不完備情報ゲームを分析した。その結果、あるパラメータの下では仮に「座席を譲る気持ちが大きく」「座席を譲ってほしい気持ち大きい」乗客同士でも座席の譲り合いが起きないことを示している。次に、コミュニケーションツールとしての「ヘルプマーク」（座席を譲ってほしい乗客が装着するマーク）の使用がこの問題を解決する可能性があることを、シグナリングのモデルを用いて示している。後半では「譲りますシート」（積極的に譲る意思のある乗客のみ着席することを促すもの）の掲示を一部の座席に行った効果を分析するため、実際の電車の車両を模した空間に乗客を配置したマルチエージェントシミュレーションを行っている。その結果、「譲りますシート」と「座席を譲ってほしいことを示すマーク」の併用が、座席の譲り合いの促進に有効であることを示している。

ゲーム理論分析及びシミュレーション分析は、それぞれ興味深く本学学部生としては高水準の研究であると認められる。残念な点としては、ゲーム理論分析とシミュレーション分析が論理的に対応していないことである（本研究で定式化されたゲームをシミュレーションしているわけではない）こと、およびパラメータを変えて何度もシミュレーションをしていないことであるが、これらの課題はより大学院レベルの知識も要することから、今後の課題として期待したい。

「唯一解を持つ拡張フィルパズルの自動生成」

吉田 業由

初期状態のグラフを縮退し、目的に沿ったグラフと最適解をさぐる試みであり、先行研究と比較することが困難であるものの、その到達具合を含めて優れていると評価した。グラフを行列化し、制約条件を設けることでグラフを縮退するアルゴリズムを実現し、計算機実験を行っている。しかし、グラフを縮退する論理的な記述が不十分である。当初解がどのような性質なのかを説明してから本論にはいると読者にも論理の見通しがよくなる。また、提案法は提示されたグラフから新規のグラフと解を生成するものである。しかし、前処理として提示されたグラフを手作業で行列化しているため、自動化の余地が残っている。今後の展望にも記載を確認したが、この過程を自動化し、もとのグラフに準じた形式のグラフを生成可能とすれば、本学の発表論文としてより訴求力をもつだろう。

「最寄品のパッケージにおける CRM 研究」

吉田 智葉

本論文は、企業の利益獲得と社会貢献の両立を目的とするCRM（コース・リレーテッド・マーケティング）について、理論的・実証的に考察を試みたものであり、企業と社会のあり方が問われている現在、タイムリーな研究であるといえる。

CRMの実態から定義、文献レビュー、仮設の導出、アンケート調査、適切な統計手法に基づく実証分析という一連のプロセスは、論理的で説得力が高い。多変量解析により、①コースに対する態度は、写真のCRMメッセージを含むパッケージを見た消費者の方が、メッセージのないパッケージおよび文字によるメッセージを見た消費者よりも有意に高い、②購買意思について、写真のCRMメッセージを含むパッケージを見た消費者の方が、メッセージのないパッケージを見た消費者よりも有意に高い、など興味深い結果が得られている。

統計分析における疑似相関の可能性、参考文献の表記等、いくつかの問題点を含むが、学生論文としては高く評価される優れた論文である。

「管理会計における日米間の学習順序の相違についての研究」

舘山 航

本論文は、日本の管理会計教育について、日米間の学習順序の違いに着目し、問題点を考察している。管理会計教育の研究においてこれまで十分に考察されてきていないテーマであり、独創性と新奇性ともに高く、今後の管理会計教育にとって非常に価値のあるものである。

日米の管理会計の特徴を踏まえた上で、その特徴が両国の学習順序の違いにいかに関与しているかについて記述している点において優れている。日本では製造業を想定とした原価計算の枠組みである『原価計算基準』の存在があり、そのため原価計算分野を先に学び、その後に狭義の管理会計分野を学ぶという順序になっていること、そしてそのことが習熟等において問題点となりうることに言及されており、今後の管理会計教育の在り方について一考を投じるものである。

これまで管理会計教育に関する研究がいかに関与され、その中で本論文がどのように位置付けられるかについて記述することでより深みを増すと思われるが、論文全体として丁寧かつ論理的に展開されており、高い評価に値する。

審査員一覧

第1次審査員一覧 (50音順)

池田 真介	石井 登	市原 啓善	伊藤 一
猪口 純路	内田 純一	王 力勇	大津 晶
小倉 一志	加賀田 和弘	片山 昇	岸本 稔
木村 泰知	金 鎔基	後藤 英之	後藤 良彰
小林 敏彦	小林 友彦	佐野 博之	佐山 公一
章 天明	多木 誠一郎	竹村 壮太郎	田島 貴裕
玉井 健一	土居 直史	中川 喜直	中浜 隆
西口 純代	西出 崇	西永 亮	橋本 伸
松家 仁	松本 朋哉	森谷 亮太	山田 久就

(以上36名)

第2次審査員一覧 (50音順)

阿部 孝太郎	池田 真介	市原 啓善	伊藤 一
猪口 純路	大津 晶	乙政 佐吉	片岡 駿
片桐 由喜	加藤 敬太	上山 晋平	木村 泰知
小泉 大城	後藤 英之	小林 友彦	近藤 公彦
佐藤 剛	佐山 公一	杉山 成	鈴木 和宏
須永 将史	高橋 恭子	多木 誠一郎	田島 貴裕
玉井 健一	手島 直樹	土居 直史	中島 大輔
西出 崇	西村 友幸	沼澤 政信	沼田 ゆかり
平沢 尚毅	深田 秀実	プラート カロラス	芳澤 聡

劉 慶豊 (以上37名)